

## オーストラリア口語英語の特徴

柏瀬省五<sup>\*1</sup>

### Features of Australian Spoken English

S. Kashiwase<sup>\*2</sup>

(Received November 17, 1995)

English is spoken in many countries, but the Australian brand is unmistakable. 'G'day, mate' will be curious to non-Australian people, but it will be delightful to the ears of Aussie. In this paper, a piece of (1) 'Australian Daily Spoken English' is displayed as a sample of Australian daily spoken language. A brief list of (2) 'Food Terms' is displayed to show the general features of Australian spoken English. The brief lists of (3) 'Shorten Forms', (4) 'Rhyming Slangs' and (5) 'Common Aussie Expressions' are displayed to show the features of Aussie English.

#### 1. はじめに

話し言葉の研究は、まず、実際に使われている話し言葉を録音や記述によってサンプルを取り、次ぎにそれを分析する方法をとる。この小論では、まず、オーストラリアで最近集めた日常語としての口語英語をごく一部だけ紹介し、それらを分析して得られた2、3のオーストラリア口語英語の特徴を報告する。

口語英語の研究は、その性質からして発音の説明から入るべきであるが、この小論に与えられたスペースが少ないので、発音の説明はここでは割愛し、語句に限ってその概略を実例をあげて報告する。

日本においては、アメリカ英語、イギリス英語の研究が盛んで、それらに関しては数多くの研究成果が報告されているが、オーストラリア英語、特にオーストラリア口語英語の研究報告は、今のところ数が少ない。それ故、この小論では、オーストラリア口語英語の特徴を日本に紹介することを目的とする。

---

<sup>\*1</sup>岡山大学環境理工学部

<sup>\*2</sup>Faculty of Environmental Science and Technology, Okayama University

## 2. 観察領域の設定について

現実に使われている日常の口語英語の総てを観察することは不可能である。そこで口語英語のある部分を選んで観察する。その際、口語英語のどこを選んで観察するかを決定しなければならない。例えば、「国会での討論」「放送中のアナウサーとリスナーの会話」「商店における店員と顧客の会話」「学校での授業中の先生と生徒の会話」「病院で診察中の医者と患者の会話」「家族の会話」「友達同士の会話」「夫婦の会話」「恋人同士の会話」「警察における取調官と被疑者の会話」「交通事故を起こした加害者と被害者の会話」「街にたむろするギャング同士の会話」「お年寄りと幼児の会話」などそれぞれに特徴があり、どれ1つとっても、それだけでは日常生活総ての言語活動を代表することはできない。従って、口語の研究は、まず、1つの領域を選定し、観察し、そこでの口語の特徴を明らかにする。次ぎに、この研究作業を別の領域に広げ、別な領域の口語の特徴を明らかにする。次々にこの研究作業を重ねて、その口語全体の特徴を明らかにする手法をとる。こうしてその口語全体の輪郭を記述してゆく。

## 3. 口語の性格を決定する要素について

口語活動の性格は、誰が話しているか、誰が聞いているか、誰がそこにいるか等（参加者）、また、何について話しているか等（話題）、さらに、改まった調子か、砕けた調子か等（状況）によって決まってくる。例えば、「夫婦の会話」であれば、当然のことながら、大人の男と女が話し手であり、聞き手であることははっきりしているが、その人たちの、例えば、職業によって言葉遣いはずいぶんと異なる。更に、「話題」によってもその言葉遣いは大きく異なる。自分たちの可愛がっている子供のことを話しているのか、互いに憎み合った末の自分たちの離婚のことを話しているのか、暇つぶしとして政治の問題について意見の交換をしているのか、家族の中に生じた問題解決のために自分の実家のことを連れ合いに説明しているのかによってその言葉遣いは大きく異なるものである。さらに、これらの会話が、子供たちも側にいる食卓の場で話されている会話なのか、それとも二人だけの寝室で話されている会話なのか、それとも、パーティのような大勢の人前での夫婦としての体面を保つために話されている会話なのかによって大きく異なる。従って、口語英語の性格は、その会話の参加者、話題、状況等に左右される。

## 4. オーストラリア日常口語英語のサンプル

次ぎに、Colin Bowlesの *G'day! Teach Yourself Australian in 20 Easy Lessons* (1986, ANGUS & ROBERTSON PUBLISHERS)の中から、第2章 "In the Disco" とタイトルのついた、ShaneとMackaの短い会話 (p. 7-9) を紹介しよう。デスコ内で若い二人の男子が「女漁り」をしている時のきわめて砕けた調子の会話の例である。

- Shane:* What a top sort. (すごい奴だな)
- Macka:* Where? (どこ?)
- Shane:* The one over there with the blonde hair and the big norks. (向こうのブロンドの髪、ボインボインの胸の子)
- Macka:* Wooden mine givin that one. She's with some turkey. (イカスじゃないか。彼女、ヒモと一緒にだよ)
- Shane:* The smooth bastard with the mo? (あの口髭をつけたへなちょこ野郎かい?)
- Macka:* Winecha go over an see if ya can white ant im? (ちょいと行ってものにできるか見てみようじゃないか?)
- 〈一方が立ち去って、ちょっと時間をおいて帰ってくる〉
- Macka:* Wossa matter? Dip out? (どうだった? ダメ?)
- Shane:* Yeah. Put the ard word onner an she told me ter rack off. (ダメ。ひどいことをさんざほざいた挙げ句にあっちへ行ってよだってよ)
- Macka:* Probly a lezzo. (きっとレズだよ)
- Shane:* Think I'll it the toe. (オレ、帰ろうかな)
- Macka:* What about we try an con up those two tarts inner corner? (あの隅の二人をちょっと当たって見ない?)
- Shane:* Nar, I've ad the bomb. You kickin on? (ダメだよ。オレはもうクタクタだよ。お前、まだやる気かい?)
- Macka:* Not stayin ere on me pat, ya bloody piker. Miteswell come with ya. (ボクはもういいよ。お前もシケタ奴じゃのう。お前と一緒に帰る方が良さそうだ)
- Shane:* This place is up the shit, Goda Selina's nex time. (ここは本当にダメだ。今度はセリナの店に行こうよ)

この会話の話し手、聞き手は、*Macka*、*Shane*で、「二人の若い男子」である。多分親しい友達同士であろう。話題は、「女漁り」。状況は「デスコの中」で、全体がきわめて碎けた調子の会話で性格づけられている。

この小論では、いわゆる「俗語」「卑語」も含めて、オーストラリア日常口語英語全体を幅広く観察し、その特徴を報告する。

## 5. オーストラリア日常口語英語のうち、特に「食事に関する語」(Food Terms)

次に、オーストラリア日常口語会話の中から、特に「食事に関する語」を拾い上げて、そのリストを提示する。「食事に関する語」は、話し手や聞き手の性別、年齢、職業などにあまり左右されず、広く一般に誰にでも共通に使われる語群である。オーストラリア日常口語英語の全般的性格を観察するのに都合がよい。まず、手始めに「食事に関する語」を概観することとする。アルファベット順に提示する。

*bangers*: ソーセージ(sausages)  
*bardie*: 食べられる虫のさなぎ、幼虫(edible grub) <アボリジニーが食べる甲虫の幼虫  
*barra*: バラマンデ、太平洋でとれる魚 <barramundiの短縮形> から> <短縮形>  
*binder*: チーズ cheese 固形の食料  
*brekkie*: 朝食(breakfastの幼児語から一般化した) <短縮形>  
*brunch*: 朝食と昼食を一緒にした食事(breakfast and lunch in the same meal)  
*bubble and squeak*: 食事の残り物(left-over meat and vegetables)  
*bullocky's joy*: 砂糖水(treacle)  
*bum-nuts*: <文字通りは「尻の実」> 卵(eggs)  
*bunghole*: <文字通りは「樽の注ぎ口」「尻の穴」の意味もある> チーズ(cheese)  
*burnt offerings*: <文字通りは「焼けこげの提供物」> 焼けこげの食べ物(burnt food)  
*cackleberry*: <文字通りは「コケコッコの実」> 卵(egg)  
*caulie*: カリフラウワー(cauliflower) <短縮形>  
*cheerio*: ソーセージ(small party sausage)  
*chew and spew*: 持ち帰りの食べ物(take-away food)  
*chewie/chewy/chuttie/chutty*: チューインガム(chewing-gum) <短縮形>  
*chockies*: チョコレート(chocolate) <短縮形>  
*chook*: 鶏(ckicken)  
*cock's joy*: 砂糖水(treacle)  
*cow juice*: <文字通りは「牛のジュース」> ミルク(milk)  
*cuey/cuie/cuke*: キュウリ(cucumber) <短縮形>  
*cuppa*: 休憩の茶、食後の茶(cup of tea, refreshments)  
*dagwood sandwich*: 大きなサンドイッチ(very large sandwich)  
*damper*: 原野で食べる手作りのパン(type of outback bread)  
*dead horse*: <文字通りは「死んだ馬」> トマトソース(sauce) <rhyiming slag>  
*dish-water*: <文字通りは「ご馳走の水」> 茶、コーヒー、スープ(weak tea, coffee  
*dodger*: パン、ソーセージなどの食べ物(bread; sausage) or soup)  
*dog's eye*: <文字通りは「犬の目」> ミートパイ(meat pie) <rhyiming slang>  
*drumstick*: <文字通りは「太鼓の叩き棒」> 鶏の脚肉(leg of chicken)  
*fart fodder*: おならを出しやすい食べ物(anything that causes flatulence)「芋類」  
*flake*: 鮫の肉(fillet of shark)  
*floater*: <文字通りは「浮き」> まめスープに入れて出されるミートパイ(pie in gravy)  
*fly cemetry*: <文字通りは「蠅の墓地」> 果物のスライス(fruit slice)  
*flybog*: <文字通りは「蠅の便所」> ジヤム(jam)  
*goog*: 卵(egg)  
*googy-egg*: 卵(egg)  
*grannie*: リンゴ(apple)  
*greasies*: 青野菜(green vegetables)  
*greens*: 青野菜(green vegetables)  
*gunk*: まずい食べ物(unsavoury food)

*henfruit*: 卵(eggs)  
*husband-beater*: <文字通りは「夫を叩く棒」> 長い棒状のパン(long bread stick)  
*johnny-cake*: 小さい手製のパン(type of small damper)  
*junk food*: 持ち帰りの食べ物(take-away food) coated cake)  
*lamington*: チョコレートとココナッツを塗ったカ菓子パン(chocolate and coconut  
*little boys*: 文字通りは「小さい子供」 小さいソーセージ(cocktail sausages)  
*lobbies*: 伊勢海老(lobsters) <短縮形>  
*lolly-water*: レモン水(lemonade)  
*loop-the-loop*: スープ(soup) <rhyming slang>  
*marge*: マーガリン(margarine) <短縮形>  
*marties*: トマト(tomatoes)  
*mash*: マッシュポテト(mashed potato) <短縮形>  
*moo-juice*: <文字通りは「モーのジュース、牛のジュース」> ミルク(milk)  
*mountain oysters*: <文字通りは「山の蛎」子羊の睾丸(testicles of lambs)  
*mousetrap*: <文字通りは「ネズミ捕り」> チーズ(cheese) <通常は安物のまずいチーズ>  
*muddie*: クィーンズランドの蟹(Queensland mud-crab) <短縮形>  
*murphy*: ジャガイモ(potato) <三音節語を二音節語に短縮>  
*mushic*: マッシュルーム(mushroom) <短縮形>  
*mystery bags*: <文字通りは「不思議な袋」> ソーセージ(sausages)  
*nana/narna/narnie*: バナナ(banana) <三音節を二音節に短縮> a chicken)  
*parson's nose*: <文字通りは「牧師の鼻」> 料理した鶏肉の尻部(tail-end of  
*pav*: <ホイップクリームと果実で飾ったメレンゲケーキ> パブロバ(pavlova) <短縮形>  
*reaper and binder*: <文字通りは「刈り取り結束機」> チーズ(cheese)  
*sammie*: サンドイッチ(sandwich) <短縮形>  
*sandie*: クィーンズランドの蟹(Queensland sand-crab) <短縮形>  
*sanger*: サンドイッチ(sandwich) <短縮形>  
*sarnies*: サンドイッチ(sandwiches) <短縮形>  
*sav*: サビロイ<よく調味された乾燥ソーセージ>(saveloy) <短縮形>  
*sinker*: パイ(pie)  
*smoke*: 一服 仕事の途中でとる休憩(refreshments during a work-break)  
*snag*: ソーセージ(sausage) <短縮形>  
*snarler*: ソーセージ(sausage)  
*snorker*: ソーセージ(sausage)  
*snot-log*: カスタードケーキ(custard-slice cake)  
*spud*: ジャがいも(potato) <三音節から一音節に短縮>  
*strawbs*: いちご(strawberries) <短縮形>  
*take-away*: お持ち帰りの食事(take-away food)  
*tater/tatie*: ジャがいも(potato)  
*tea*: 夕食(main evening meal)  
*tinned dog*: 缶詰の食べ物(any tinned mead)

*underground mutton*: <文字通りは「地下の羊肉」> ウサギ(rabbit)

*Vegemite*: ベージマイト<野菜から作ったジャム風の食べ物、オーストラリア人は好んでパンに塗って食べる:a favourite spread made from vegetable extract>

*vegies*: 野菜(vegetables) <短縮形>

*weenies*: 小さなソーセージ(small cocktail sausages)

## 6. オーストラリア日常口語英語の中の「短縮形」(Shorten Forms)

上記のオーストラリア日常口語英語の「食事語」(food terms)を観察すると、*bardie*, *barra*, *brekkie*, *brunch*, *caulie*, *chewie*, *chokies*, *chook*, *cuey*, *greens*, *lobbies*, *marge*, *marties*, *mash*, *muddie*, *murphy*, *nana*, *pav*, *sav*, *snag*, *spud*, *vegies*, *weenies* 等のような「短縮形」が目につく。そこで次ぎに、オーストラリア日常口語英語の中に見られる「短縮形」を列挙する。

*abo* <軽蔑した言い方>: aborigine (アボリジニー)

"He gives it back to the *Abos*." (彼はアボリジニーを馬鹿にしている)

*ambos*: ambulance drivers (救急車の運転手、乗務員)

"Call for *ambos*." (救急車を呼んでくれ)

*arvo*: afternoon (午後) "See youse this *arvo*!" (今日の午後会おうね!)

"It's Thursday *arvo*." (木曜日の午後ね)

"We play tennis this *arvo*." (今日の午後テニスをする)

*Aussies*: Astralians (オーストラリア人) <発音はオーズィーズ>

"*Aussie* batler". (オーストラリア人男)

*barby*, *barbie*: barbecue (バーベキュー)

<肉の鉄板焼き、オーストラリアでは国民的な肉料理の仕方であり、  
代表的なピクニックの方法>

"They are building a *barbie* in the back yard."

(彼らは裏庭でバーベキューを始めている)

*bickie*: a lot of money (金をたんまり)

*bikers*: motorcycle riders (オートバイ運転手)

*bikkies*: biscuits (ビスケット)

*bizzo*: business (仕事)

"Shane is pretty toey(nervous) about the whole *bizzo*."

(シェーンは仕事には何でも神経質だ)

*bottle-oh*: bottle collector (瓶の収集人)

*brekky*: break fast (朝食) "Aaron is having *brekkie*." (アーロンは朝食を食べている)

*brickie*: bricklayer (煉瓦積み職人)

"His mate Davo is a *brickie*." (ダーボーは煉瓦 積み職人だ)

*chook*: chicken (鶏)

*Chrissie*: Christmas (クリスマス)

*compo*: compensation(補償金)

"Mr Foster is on *compo*." (フォスター氏は失業補償金で暮らしている)

*corro students*: correspondence students (通信教育を受けている学生)

"They are *corro students*." (彼らは通信教育を受けている)

*cossie*: swimming costume(水着)

*Darlo*: ダアーリングハーバー (Darling Harbour) <シドニー市内の地域名>

"He lives in *Darlo*." (彼はダーリングハーバーに住んでいる)

*dekko*: look(見ること)

*deli*: delicatessen(食料品店) "At the *deli*." (食料品店で)

*demo*: demonstration(実技)

"You can stage *demo* to proto against government policy."

(君たちは政府の政策に反対してデモしてもよい)

*derro*: derelict(社会から見放された人々)

*devo*: devient (変わり者)

*docos*: documentaries (事実説明)

*flatties*: flat-soled shoes(平底の靴), women's low-heeled shoes(女性用平底の靴)

*footie, footy*: football(フットボール)

Australian Rules Football (オーストラリア・ルール・フットボール)

<ラグビーと似ているがラグビーとは異なるオーストラリアで人気のあるラグビー風のボールゲーム>

*footy ground*: football grounds (フットボール場)

"We parked our car by the *footy grounds*."

(フットボールグラウンドの側に車を停めた)

*garbo*: garbage collector (生ゴミ収集人)

"He is a *garbo*. He works as a *garbo*." (彼は生ゴミの収集人だ)

*gastro*: gastroenteritis(腹痛)

"He had *gastro* yesterday's arvo." (彼は昨日の午後腹痛だった)

*gerrie*: geriatrics (老人)

*gin*: female Aborigine(女性のアボリジニー)

*hollies, (the)*: Christmas season (クリスマスの季節)

*info*: information(情報)

*journos*: journalists (新聞記者)

"A *journos* writes for a rag." (新聞記者はくだらない記事を書く)

*kindie*: kindergarten(幼稚園)

*lezzo*: lesbian(レスビアン) "Proibly she is a *lezzo*." (多分彼女はレスビアンだ)

*lingo*: language(言語)

*lippie*: lipstick(口紅)

*Lotto*: Lottery(宝くじ)

"He wants to win the *Lotto*." (彼は宝くじに当たるように期待している)

*medico*: medical practitioner(医者) "The *medico* does ops." (その医者は手術をする)

*memo*: memorandum(メモ、覚え書き)

*milko*: milkman (牛乳配達人) "A *milko* delivers milk." (牛乳配達人は牛乳を配達す)

*mo*: a moustache(口ひげ) "He has a *mo*." (奴は髭をつけている)

*mozzies*: mosquitoes(蚊)

*nashos*: national service(軍務) "He was in the *nashos*." (彼は軍務についていた)

*nightie*: night wear(寝着)

*oz*: Australia (オーストラリア) <発音はオーズィー>

*polliesty dub* (一杯飲み屋)

*postie*: postman (郵便配達人)

*prezzies*: presents (贈り物) "He gave me a *prezzie*." (彼は私に贈り物をくれた)

*repo*: report(告げる) "They *repo* your wheels." (彼らが君の自動車事故を知らせた)

*relies, rels*: relatives (親戚、関係者)

*roo*: kangaroo(カンガルー)

*rubby*: *rubbi*: motorcycle gangs (オートバイ野郎)

*Salvo*: Salvation Army(救世軍)

*Santa*: Father Christmas (サンタクロース)

*singlie*: singlet(下着)

*surfie*: surfers(サーファー)

"She wants to be a *surfie* groupie."

(彼女はサーファーグループに入りたがっている)

*tinnies*: tin cans (缶入り飲み物、特にビール缶)

"The Salvos come round with the *tinnies*."

(救世軍がビール缶を持って寄付集めにきた)

*trammies*: tram cars (路面電車)

*truckies*: truck drivers (トラックの運転手)

*uni*: university (大学)

*ute*: utility(小トラック)

"Mr. Foster is unloading bricks off the back of Davo's *ute*."

(フォスター氏はダーボの車から煉瓦をおろしている)

*vag*: vagrant(放浪者)

*vegies*: vegetables (野菜) "The fruitologist sells *vegies*." (果物屋は野菜を売る)

## 7. 脚韻語(Rhyming Slangs)

「食事語」(food terms)を観察して次ぎに気づくことは、そのものの形状からオーストラリア人独特の解釈の仕方で表現する語、例えば、*bum-nuts* (卵), *cow juice* (ミルク), *dog's eye* (ミートパイ), *drumstick* (鶏の脚肉), *fly cemetry* (果物のスライス), *husband-beater* (長い棒状のパン), *little boys* (小さいソーセージ), *moo-juice* (牛



乳), *mountain oysters* (子羊の睾丸), *parson's nose* (料理した鶏肉の臀部), *under ground mutton* (ウサギ) 等である。その連想の豊かさは見事なものである。

豊かなのは形状だけではない。音声の利用にまで及ぶ。次ぎに英語で *rhyming slang* (脚韻語) と呼ばれる、本来の語と最終音節の音が同じになるように新しく選ばれた、あるいは作られた、オーストラリア独特の、いわゆる「語呂合わせ語」を紹介する。

*Al Capone*: Telephone (電話) のこと "Pick up the *Al Capone*." (電話をくれ)

*dog and bone* ともいう。"Answer the *dog and bone*." (電話をくれ)

*eau de cologne* ともいう。"Answer the *eau de cologne*." (電話をくれ)

*babbling brook*: cook (料理) のこと

"You are good at *babbling brook*." (君は料理が上手だ)

*bag of fruit*: suit (服) のこと

"You have a wonderful *bag of fruit*." (君はいい服を持っているね)

*ballarat*: cat (猫) のこと "How is your *ballarat*?" (君の猫はどうした?)

*Billy lids*: kids (子供たち) のこと

"How noisy the *Billy lids* are!" (子供たちはうるさいな!)

*Bob Hope*: soap (石鹼) のこと

"Where did you buy those *Bob Hopes*? (石鹼をどこで買ったの?)

*Captain Cook*: look (見る) のこと

"Have a *Captain Cook*." (ちょっと見て)

*cheese and kisses*: Mrs. (婦人) のこと

"I don't like the *cheese and kisses*." (あの女は好きでない)

*china plate*: your mate (君の友達) のこと

"What's *china plate* doing?" (君の友達はなにをしているんだい?)

*hollow log*: dog (犬) のこと

"How's your *hollow log*?" (あんたの犬はどうしたい?)

"My *hollow log*, what?" (私の犬がどうしたって?)

*John Hops*: cops (警察官) のこと

"You can see *John Hops* there." (あすこに警官がいるよ)

*Oxford dollar*: scholar (学者) のこと

"How dumb the *Oxford dollar* is!" (あの学者はなんと間抜けだ!)

*Oxford scholar*: dollar (ドル) のこと

"You bought Caulies of an *Oxford scholar*!"

(君は1ドルもするカリフラウワーを買ったの!)

*Steak and Kidney*: Sydney (シドニー) のこと

"I'll be in *Steak and Kidney* by morning."

(朝までにはシドニーに着く)

*tit-for-tat*: hat (帽子) のこと

"You bought a nice *tit-for-tat*." (いい帽子を買ったね)

*trouble and strife*: wife (妻) のこと

"How is your *trouble and srife*?" (奥さんのご機嫌はいかが?)

*Warwick Farms*: /WAR-rick fa:mz/: arms (武器) のこと

## 8. オーストラリア人が好んで使う日常口語表現(Common Expressions)

最後にオーストラリア人が好んで使う日常口語表現を列挙しよう。「短縮語」「比喻語」「脚韻語」を駆使し、軽快で、連想が自由で、あたかも英語を楽しんでいる感がある。

*ace*: すばらしい(excellent), 第一級の(first in quality), すごい(outstanding)

"The kids think he's *ace*." (子供たちは彼をすごい奴だと思っている)

*ang on*: ちょっと待て(wait a moment)

"*Ang on, ang on*." (待て、待て)

*arvo*: 午後(afternoon)

"We play tennis this *arvo*." (俺たちは今日の午後テニスをする)

"See youse this *arvo*!" (今日の午後会おう!)

*avago*: have a go = try harder(頑張って) <通常は "*ya mug*"(阿呆) それとも "*you fool*"(馬鹿だね君は)を付け足して使う>

"*Avago, you fool*." (しっかりしろ馬鹿だね)

*barbie*: *barbecue*(バーベキューの短縮形)

"Let's have *barbie*." (バーベキューをしよう)

*bewdy or bewdy bottle*: いいね(the best); "*bewdy friend*"(いい奴だね)

*beyond the Black Stump*: far from the city(ど田舎), the outback(へんぴな場所)  
="Out in the woop woop"(ど田舎)

*bingle*: 自動車事故(car accident)

"He had a *bingle* this morning." (彼は今朝自動車事故を起こした)

*bluey*: 携帯用の毛布<通常巻いて縛ってある>(a swag or a blanket roll)

'He humped the *bluey*.' (彼は田舎に出かけた)

*bombed out*: 酔っぱらった(drunked)

"He is heavily *bombed out*." (彼はぐてんぐてんに酔っぱらっている)

*bushed*: くたぶれた(tired), 迷った(lost), 酔っぱらっている(drunk)

"She is already *bushed*." (彼女はもう酔っぱらっている)

*by crikey*: 「ああ、びっくりした!」

<びっくりしたときの表現(an expression of surprise)>

*cark it, kicked the bucket*: 死ぬ(to die);

"He *carked it* yesterday." (彼は昨日死んだ)

*cashd up*: たんまり現金を持っている(having plenty of ready money)

<「スカンピンだ」の反対表現>

"The *cashd-up* shearers spent their cheques in the Menindee pub.

"(あの羊の毛刈人はメニンディのパブで金を全部使ってしまった)

*cheesed*: 飽き飽きした(bored), うんざりした(fed up)

"I'm *cheesed off*." (私はうんざりだ)

*chewie*: チューインガム (chewing gum)

"Do you have a *chewie*?" (チインガムもってるかい?)

*chick*: 娘っこ (a young girl)

"Don't seduce such a *chick*." (あんな娘に手を出すな)

*chook*: 家禽 (a domestic fowl, bardee, chicken)

*chook raffle*: <パブなどでやっているクジ。賞品は鶏>

*chuck a willy*: 生意気な態度をとる(wobbly, go berserk)

*cobber*: 友人(friend)

*cobber dobber*: 告げ口をする奴(person who informs on a friend)

*cocky*: 農夫 (a farmer)

"*cow cocky*" (牛飼い農夫); "*sheep cocky*" (羊飼い農夫)

*come a gutser*: 滑ってひっくり返る (cropper) (to fall heavily)

"He *came a gutser* in the new business." (彼奴は新事業で失敗した)

*cot case*: へとへとだ、寝るだけ (a drunk or exhausted person, fit only for bed)

*could eat a bullock stuffed with rabbits*: 腹がぺこぺこに減っている (extremely

*deadhead*: 馬鹿な奴(a stupid person) hungry)

"You're *deadhead*." (君は間抜けだ)

*dead marine*: 空のビール瓶(an empty beer bottle)

"We drank much. They are *dead marine*." (飲んだな。ビールはもう空っぽだ)

*dead set*: 絶対だ。間違いない(certain; assured meaning 'really')

"It's *dead set*." (そいつは間違いない)

*dead set against it* (uncooperative): 納得できないな、協力できないよ

*dinky-di*: 本物の(genuine)

"I have a *dinky-di* army bike." (オレは本物の軍用バイクを持っている)

*do a Norm*: 馬鹿なことをする(to act foolishly)

"Stop *doing a Norm*." (くだらんことはやめろ)

*do the lolly* (melon; nana; loaf): 怒る(to get very angry)

"Don't *do the lolly*." (怒らないで!)

*dob in*: 言いつける、密告する、いやな仕事を他人に押しつける(to betray or report someone to the authorities, also to nominate someone for an unpleasant task) "I'll *dob you in*." (お前がやれ)

*doing a Melba* (or Melba's farewell): なんべんもさよならを言う(saying goodbye time and time again) 「さようなら」と言ってまた出てきてまた「さようなら」

*doughy*: 馬鹿な奴(stupid person) という。

*drongo*: 馬鹿、のろま(stupid person)

*dry as drover's dog*: すごく喉が乾いている(extremely thirsty)

*dunny*: 田舎の屋外にあるトイレ。今では一般の公衆トイレ(an outside toilet)

*esky*: 携帯用の氷を入れて使う冷蔵ボックス(a portable icebox) <brand name>

*fair dinkum*: 本当、すばらしい、本物(honest; genuine, really; honestly)

*fair enough*: いいよ(all right, acceptable)

*fair go*: ちゃんとやれ (a chance; also an appeal for fairness)

*five finger discount*: 万引きする(shoplifting)

*flake (out)*: 倒れ込む、ぐっすり寝込む(to collapse; to fall asleep)

*flat out like a lizard drinking*:

夢中になっている(lying prone; also rushed, extremely busy)

*flush*: たんまり金を持っている(having plenty of money)

*fossick*: ものを探す(to search for something)

*freak out*: 大げさに反応する(to have an extreme reaction, good or bad, to

*full as a good (tick; boot)*: 酔いつぶれた(drunk) something)

*game as Ned Kelly*: 勇敢である(very brave)

<Ned Kelly はオーストラリアの伝説的に有名な1878年頃の強盗>

*garbage!*: くだらねえ(an exclamation meaning "what rubbish!")

"Garbage! I don't believe you!" (くだらねえ! お前なんか信じられない!)

*get off your bike*: 怒る(get angry)

"Don't get off your bike. Calm down. (怒らないで)

*good one*: すげえ! (an exclamation of approval or disapproval)

*goodo*: いいよ 分かった(yes, all right!)

*gutful*: もうたくさん(more than enough)

*have tickets on oneself*: だまされている(to be conceited)

*hit the deck*: ひれ伏す、頭を下げる(to duck; to put one's head down)

*hit the tin*: 小銭を寄付する(to put money in the kitty; to contribute)

*hoon*: がさつな奴(a stupid or uncultivated person), 馬鹿者(a fool)

*hooroo*: バイバイ(goodbye)

*jigging*: 学校をさぼる(playing truant from school, wagging)

*kick in*: 小銭を寄付する(to help out with money)

*knock*: 批判する、あらを探す(to criticise, find fault)

"People are always knocking the Government." (人々はいつも政府を批判する)

*knocker*: 口の悪い人(a person who makes derogatory remarks)

"He's a knocker. (彼は毒舌家だ)

*like a hornet in the bottle*: 大騒ぎだ(furious)

*like a possum up a gum tree*: 素早く動き回る(moving fast)

*like a rat up a drain pipe*: 素早く動き回る(moving even faster)

*lingo*: 言語(language)

*loaded*: すっかり酔っぱらっている(extremely wealthy; also very drunk)

*mate*: 君、仲間(good or best friend)

<次の句でよく使う> "G'day, mate." (こんにちは)

*matilda*: 仕事人が持ち歩く寝具としての毛布(a blanket roll carried by a swagman)

*m'oath*: 絶対(my oath; on my oath)

*mug*: 馬鹿者 "you fool"(おい、馬鹿) のような言い方が普通

"You, *mug copper*." (おい、ポリ公)

*mulga*: 山野(rough country)

*nick*: 盗む(to steal)

*nick off*: 立ち去る(to go away) = "Lose yourself." (消え失せろ)

*nicked*: 捕まる(to be caught) "He got *nicked*." (彼は捕まった)

*nifty*: 気取った奴、賢い奴(stylish; clever; shrewd to the point of dishonesty)

*no-hoper*: 間抜け、ダメな奴(an incompetent person; a social misfit)

"He is a real *no-hoper* at tennis." (彼は本当にテニスが下手だ)

*nosh-up*: ご馳走(a good meal)

*ocker*: 典型的オーストラリア人(the archetypal uncultivated Australian man)

<一般的なオーストラリア人のイメージは、ユーモアがある、なんでもできる、何でも知っている、気取らない男>

*ooroo*: バイバイ、さようなら(goodbye)

*outback*: 都市から離れた田舎、荒れ地(inland country far away from the cities)

*prang*: 自動車事故(minor car accident)

*rack off*: 立ち去る(to go away) = 'Lose yourself' (消え失せろ)

*ring in*: 補欠、付け足し(a substitute)

*sangers*: サンドイッチ(sandwiches)

"Did you make the *sangers*?" (あのサンドイッチは君が作ったの?)

*scugy*: みすぼらしい、汚らしい(mean, dirty, miserable, unpleasant)

*shonky*: 質が悪い、インチキくさい(poor quality; shoddy)

*sickie*: 病気と言って休む休暇(a day taken off work) <しばしば仮病を使う>

*skip*: オーストラリア生まれの(Australian-born) <from Skippy the Kangaroo>

*stinker*: 嫌な奴(an objectionable person)

*stone the crows*: ああびっくりした!(exclamation of astonishment)

*swag*: 携帯用の寝具としてぐるぐる巻きにした毛布(a blanket roll of light bedding)

*swagman*: 転々と仕事をしながら移動する人。移動手段は歩きだった。

(a man who travels around the country on foot and takes odd jobs)

*ratbag*: グロツキ(a rogue; an eccentric person)

*rubbish*: 他人を批判する(to criticise; to mock)

*tata*: バイバイ(bye bye)

*tax*: ごまかす(to steal; to nick)

*tinny*: ビール、ジュース等が入った缶(a can of beer)

*too right*: 「合点だ!」の意味の常套語句(an exclamation meaning "quite agree")

*top drop*: 上等のビール(a good beer)

*true blue*: 本物(genuine)

*twit*: 馬鹿者(a fool) "Are you out of your *twit*?" (気が狂ったか?)

*up-ta-putty*: くだらない(terrible)

*vegie*: 間抜けた奴だ(a silly person)

*veg-out*: くだらないことをする(to do something foolish)  
*wag it*: 学校をサボル(to play truant)  
*wheelie*: 車の運転中に車輪をキリキリいわせて角をまわる  
 (a noisy skidding turn while driving)  
*whopper*: モノがでかい(something surprisingly big)  
*wowser*: 興ざめな奴、気取った奴(a killjoy; a prudish teetotaler)  
*write-off*: 亡き者にする、全滅(a total loss)  
*yakka*: きつい仕事(hard or heavy work)  
*yobbo*: 品のない馬鹿者(a stupid or uncultivated person)  
*zonked(out)*: くたびれた、へとへとになった(tired out; exhausted)

## 9. おわりに

言葉はその言葉を使う人の人柄を表す。乱暴な物言いをする人は乱暴な性格の人に違いない。丁寧なもの言いをする人は、丁寧な考え方をする人であろう。早口の人、決断も早い人に違いない。ゆっくり話す人は、ゆっくりと行動する人であろう。しかし、これらの言葉と人柄の関係は、「晴れ着の標準語」より、日常に使う「普段着の口語」の方がはるかに相関関係が強い。

オーストラリア人を理解するためには、オーストラリア人が日常に使う英語をありのままに研究する必要がある。しかしながら日本では、しばしばアメリカの英語、イギリスの英語を通して、間接的にオーストラリア英語とオーストラリア人を見る傾向が強い。その結果、オーストラリア英語とオーストラリア人の性格とが、日本に直接的に伝えられていない。

この小論では、オーストラリア人が日常的に使う口語英語をほんの一部だけ紹介した。小さな小さな小窓から大きな大きな大陸を覗き見たに過ぎない。今後、多くの人々がオーストラリア英語を直接的に観察し研究することを期待する。

## 参 照 資 料

この小論を書くに当たり、参照した資料は次の通り。

- 1) *Kangaroo's Comments & Wallaby's Words - The Aussie Word Book* by Helen Jonsen, Hippocrene Books, New York, 1988.
- 2) "Food Terms" by Diane Elliot. Delivered in an English class for Japanese students at Deakin University in Warrnambool, Australia. August, 1995.
- 3) "Aussie English Phrases" by Diane Elliotte. Delivered in an English class for Japanese students at Deakin University in Warrnambool, Australia. August, 1995.

- 4) Mr & Mrs John Arms (Rosehill Road, Grassmere, Victoria, Australia) ご夫妻には1995年の8月に2週間滞在し、各語の用法のチェックにご協力いただいた。
- 5) *The Australian Slang: A Look at What we Say and How we Say it* by Bill Hornadge. Cassel Australia, Melbourne, 1980.
- 6) *A Dictionary of Australian Colloquialisms* by G.A. Wilkes. Collins Publishers, Australia, 1988.
- 7) *G'Day! Teach Yourself Australian in 20 Easy Lessons* by Colin Bowles. Angus & Robertson Publishers. North Ryde, Australia, 1986.
- 8) *The Macquarie Dictionary of Australian Colloquial Language*. The Macquarie Library. Macquarie University, Australia, 1988.
- 9) *The Australian Language* by Sidney J. Baker. The Macmillan Company of Australia, 1986.
- 10) *John Blackman's Best of Aussie Slang* by John Blackman. Sun by Pan Macmillan Australia, Sydney, 1995.
- 11) *Don't Come The Raw Prawn! The Aussie Phrase Book* by John Blackman. Sun by Pan Macmillan Australia, 1991.
- 12) *The Pocket Macquarie Dictionary* (ed.) by David Blair. The Jacaranda Press, Australia, 1988.